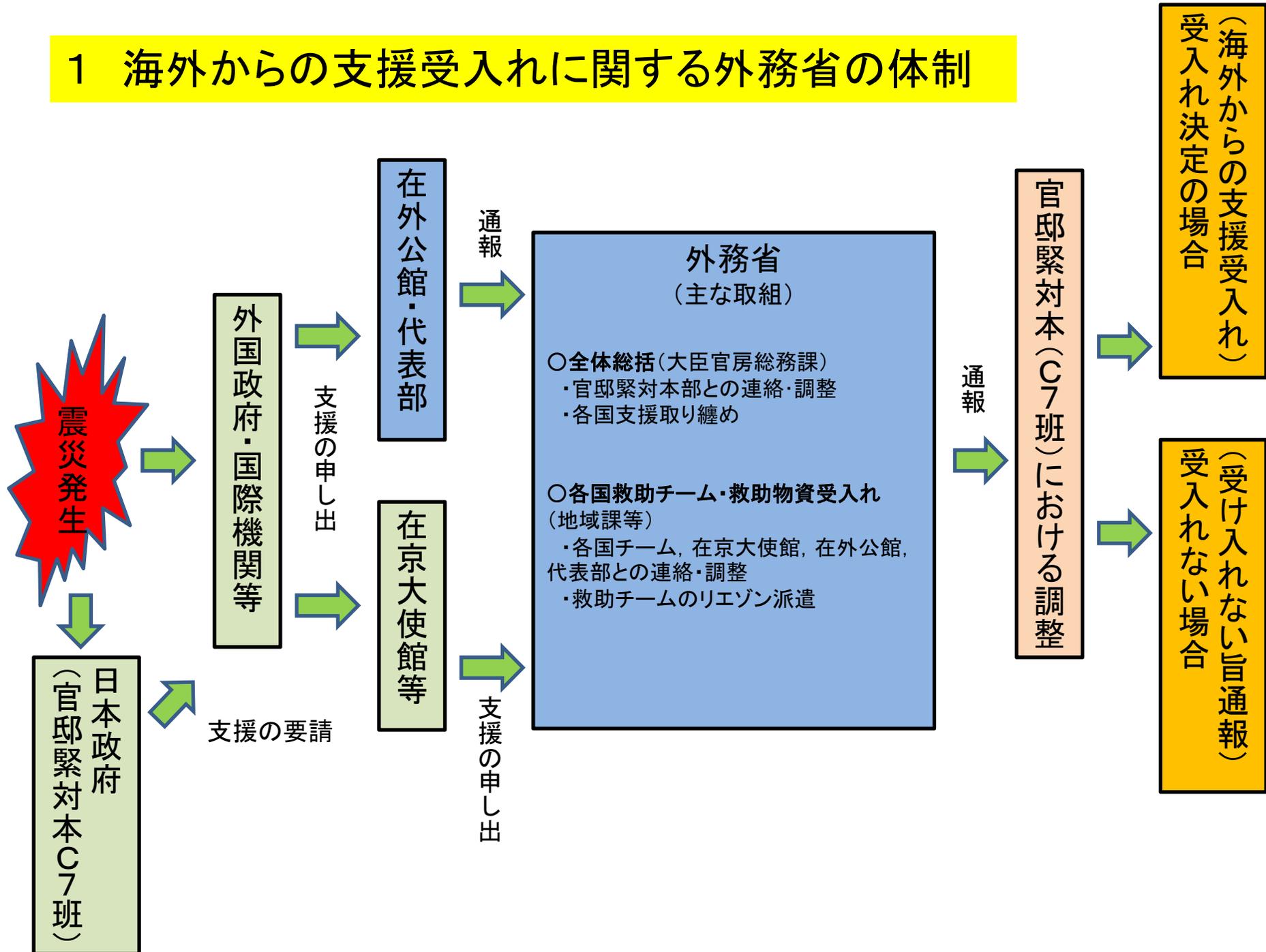


海外からの支援受入れ

平成23年10月

外務省

1 海外からの支援受入れに関する外務省の体制



2 海外からの支援受入れ実績

- 163の国・地域, 43の国際機関から支援の申し出(一般的な支援表明を含む)
- 29の国・地域・国際機関からの救助チーム・医療チーム等を支援受け入れ
- 63の国・地域・国際機関からの支援物資を受入れ

【詳細は別添資料を御参照】

【参考】阪神・淡路大震災における外国からの支援受入れ概要

- 80の国・地域・国際機関からの支援の申し出
- 46の国・地域からの支援を受入れ

3 海外からの支援受入れの教訓と改善点

(1) 救助チーム

【救助チームの「自己完結」体制】

- 派遣国に対しては、「自己完結」体制での来日を強く要請したが、国によって準備状況に大きく違いがあった。



対応策

- 派遣表明国に対して提示するチェックリストを準備しておくことが望ましい。また、救助・医療チームとともに、在京大使館のロジ支援も重要であり、交通手段の提供も含め在京大使館とも事前に十分打ち合わせる必要がある。

- 国連による外部評価(各国救助チームの能力評価)を活用し、三段階評価のうち最高分類である「重」の評価を得ているチームとの受入れに関する調整をまず行い、その後の状況に応じて「中」及び「軽」評価のチームの受入れを検討することが望ましい。(なお、我が国の国際緊急援助隊救助チームは「重」を取得済)。

- その他、各国チームの受入体制について検討が必要。

【リエゾン】

●救助チーム等への外務省リエゾンの(空港到着から現地入り, 更に帰国までの)同行は不可欠(関係省庁からも評価されている)であるが, ハード・ソフト両面での準備不足があった。



対応策

- 政府内において以下の準備・検討が必要である。
- (ア) 救助チーム等に常時同伴するため, テント生活, 現場作業に耐えられる装備, 食糧品の携行
- (イ) 通信手段(携帯電話・衛星電話)などロジスティクスに関する平時からの準備
- (ウ) 外務省として派遣時のバックアップ体制の整備
- (エ) マニュアルの整備
- (オ) リエゾンと救助チーム等の広報担当との役割分担の明確化(リエゾンと救助チーム等の認識の共有)

(2) 医療チーム

【総括】

●多くの国(最終的に30カ国以上)から医療チーム派遣の申し出があったが、被災当初に自治体に照会した際には、現地が混乱していたことから具体的なニーズの報告はなかった。



対応策

●被災直後に医療ニーズを具体的に把握することは容易ではないが、ある程度被害状況が把握され、分野毎の専門医不足が明らかになった段階ではマッチングが比較的容易であることから、支援を申し出た国に対し、どの分野の専門医が派遣できるか、医療資機材による支援が可能かについて確認しておく必要がある。

(3) 物資支援

【総括】

● マッチング (海外からの物資支援オファーと被災地におけるニーズ調整) において、以下の課題に直面。

- ・ ニーズ把握が困難であった (被災地のニーズは日々刻々と変化。被災地の行政当局が多忙。海外からの物資輸送には時間を要する)。
- ・ 海外からの支援物資のオファーに詳細な情報が付されていない例が多かった。



対応策

- 外国から比較的受け入れやすい物資、大量に必要な物資をあらかじめリスタップする。
- 物資支援一般に関する手続を定めたマニュアルの検討。

参考① 国際社会との協力(災害救援分野)

- 本年3月に発生した東日本大震災での地震や津波による甚大な被害発生を受け、アジア・太平洋地域において災害救援に関する協力の機運が盛りあがっている。
- 本年前半のASEANとの会議や7月のARFやEASの閣僚級会議において、災害救援分野における域内協力の可能性について議論された。
特に、11月のEASに向けて、インドネシアや豪州等から、地域での災害救援の協力に関し、包括的な提案がなされる見込み。
- その中には、外国からの援助部隊の受入れに関して、何らかの枠組みを構築するとの考えも含まれている模様。



- 今後、このような取組みに我が国としてどのように対応していくか、要検討。

参考② 国際社会への発信

日本政府からのメッセージ

- (1) 国際社会からの支援, 連帯, 友情 = 「絆」への謝意
- (2) 福島第一原発の事態収拾に向けた総力を挙げての取組, 現状説明
- (3) 風評被害対策
- (4) 開かれた復興, 日本再生に向けた取組

【手段・媒体】

- 総理による, ①謝意広告, ②感謝メッセージ, ③海外紙への寄稿
- 外務大臣による海外紙への寄稿
- 政府ハイレベルによる各国等への直接の働きかけ
- 政府要人への外国プレスによるインタビュー
- 在京外交団ブリーフ
- 在京外国プレスブリーフ
- 官邸・外務省HP
- 在外公館を通じた発信